



肝ぞう通信

2025年度 第4号 《最新の肝ぞう手術のご紹介》

お知らせ

肝疾患医療センターは、肝疾患に関する心配事や悩み事のご相談にお応えしています。

当院では、総合相談室が窓口になっております。

場所：病院1階
総合相談室

受付時間：(休診日は除く)
月～金：9:00～15:00
土(第1・3・5)：9:00～12:00

豆知識

高度な肝臓・胆道・脾臓手術や内視鏡外科手術の安全性を担保するため、学会により認定医制度が定められています。

次回号

テーマ：
PBC(原発性胆汁性胆管炎)
について(予定)

発行責任者

東海大学医学部付属病院
肝疾患医療センター長
加川 建弘

肝ぞうの最先端手術～傷が小さく精密な「腹腔鏡/ロボット肝ぞう手術」～

～肝ぞう手術について～

われわれ肝ぞう外科は肝ぞうに関する外科手術を担当し、扱う疾患には肝臓がんや転移性肝がん、胆道がんなどがあり、診断や治療が難しい難治のがんが多く含まれます。またこの肝ぞう領域の手術は難易度が高い手術が多く合併症も多いことが知られており、それゆえ一般の病院では今も大きい傷をつけてお腹を開く従来の開腹手術が広く行われています。

～患者さんに優しいダメージの少ない低侵襲手術(腹腔鏡下手術とロボット手術)～

そのような中、当科では肝ぞう手術においても腹腔鏡下手術が導入されており、非常に良好な成績を収めています。腹腔鏡下手術とは、5mmから10mm程度の小さな穴を約5か所お腹に開けて、炭酸ガスでお腹を膨らませて、お腹の中に腹腔鏡を挿入してモニタ一画面を見ながら細い器具(鉗子といいます)を駆使して手術を行う方法です。

従来の開腹肝ぞう手術と比べて、腹腔鏡肝ぞう手術のメリットとして

- ①傷が格段に小さくなり体へのダメージが少なく、また整容性にも秀でている、
 - ②疼痛が大幅に軽減されて社会復帰が早まる、
 - ③出血量をより少なくできる、
 - ④細かい血管まではっきり見えて手術の精密さが向上する、
 - ⑤術後にお腹の中の癒着が起きにくいため将来的に腸閉塞が起こりにくくなる、
- など数多くの点が挙げられます。

その腹腔鏡下手術をさらに進化させた最先端の治療がロボット手術になります。ロボット手術はロボットアームに接続された細い鉗子や器具を術者が操作して手術をおこなうもので、腹腔鏡下手術と比べて以下の長所があります。